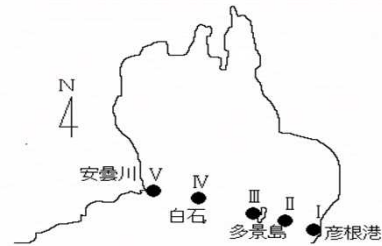


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和5年10月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご注意ください。

調査年月日 令和5年10月16日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

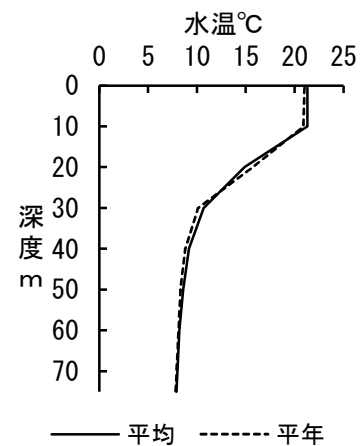
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2013年～2022年(平成25年～令和4年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 10月平均値 6.4m 平年値 5.7m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	10月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	21.3	21.0	+0.3
10	21.3	20.9	+0.4
20	14.9	15.7	-0.8
30	10.7	10.1	+0.6
40	9.2	8.8	+0.4
50	8.6	8.3	+0.3
60	8.2	8.1	+0.1
75	7.9	7.8	+0.1



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
9月下旬	27.1	23.5	+3.6
10月上旬	22.6	21.8	+0.8
10月中旬	18.7	18.6	+0.1

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	10月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	32.3	15.0	+17.3
10~20	11.3	4.0	+7.3
20~40	4.2	1.0	+3.2
40~75	0.4	0.4	+0.0

(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、全ての地点で*Aulacoseira granulata*(アウラコセイラ:珪藻)が量的に最も多く認められた。

動物プランクトンについては全ての地点で*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生が個体数で最も多く認められた。



Aulacoseira granulata



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度: mg/L) 多項目水質計による測定値。ただし平年値(参考値)はウインクラ法による測定値。

深度 (m)	10月平均値		平年値(参考値)		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	8.7	97.8	8.8	102.0	-0.1	(-4.2)
10	8.7	97.9	8.7	100.3	0.0	(-2.4)
20	7.0	70.2	7.0	72.8	0.0	(-2.6)
30	7.8	70.5	7.8	72.4	0.0	(-1.9)
75	4.2	35.2	4.2	36.8	0.0	(-1.6)